

## 代数学幾何学演習 II (No.008)

利根川 聡

2003年10月24日

**57.**  $T$  を  $V$  上の線形変換とする。

(A)  $\langle e_1, \dots, e_r \rangle$  を  $\text{Ker}T$  の基底とし、それを拡大して  $V$  の基底  $\langle e_1, \dots, e_n \rangle$  を得たとして、(1),(2) を証明せよ。

(1)  $\langle Te_{r+1}, \dots, Te_n \rangle$  は  $\text{Im}T$  の基底である。

(2)  $T^2 = T$  ならば  $\langle e_1, \dots, e_r, Te_{r+1}, \dots, Te_n \rangle$  は  $V$  の基底である。

(B)  $T^2 = T$  として、(3),(4) を証明せよ。

(3) 任意の  $x \in V$  に対し  $x - Tx \in \text{Ker}T$

(4)  $V = \text{Im}T + \text{Ker}T$  [ヒント:  $x = Tx + (x - Tx)$ ]

(5) 等式  $\dim V = \dim(\text{Im}T + \text{Ker}T) + \dim(\text{Im}T \cap \text{Ker}T)$  を証明せよ。

(6)  $T^2 = T \Rightarrow \text{Im}T \cap \text{Ker}T = \{o\}$  を証明せよ。

(7) (1)~(6) を適当に利用して、 $T^2 = T \Rightarrow V = \text{Im}T \oplus \text{Ker}T$  を証明せよ。

注: (1),(5) では  $T^2 = T$  を仮定しない。

**58.**  $V$  を  $n$  次元ベクトル空間、 $E = \langle e_1, \dots, e_n \rangle$  を  $V$  の正規直交基底とする。また、 $T$  を  $V$  上の線形変換で  $Te_k = e_{k+1}$  ( $1 \leq k \leq n-1$ ),  $Te_n = e_1$  を満たすものとする。

(1)  $T$  の基底  $E$  に関する行列を求めよ。

(2) (1) で求めた行列を  $A$  とするとき、 $A^k \neq E$  ( $k = 1, 2, \dots, n-1$ ) および  $A^n = E$  が成り立つことを示せ。

(3)  $f_1 = e_1 + e_2 + \dots + e_n$  とおき、 $f_1$  によって張られる  $V$  の1次元部分空間を  $W_1$  とすると、 $W_1$  は  $T$ -不変部分空間となることを示せ。

(4)  $n$  を偶数とする。このとき、 $f_1 = e_1 + e_3 + \dots + e_{n-1}$ ,  $f_2 = e_2 + e_4 + \dots + e_n$  とおき、 $f_1, f_2$  によって張られる  $V$  の2次元部分空間を  $W_2$  とすると、 $W_2$  は  $T$ -不変部分空間となることを示せ。

(5)  $n = 3$  とし、 $f_1 = \frac{1}{\sqrt{3}}(e_1 + e_2 + e_3)$ ,  $f_2 = \frac{1}{\sqrt{2}}(e_1 - e_2)$ ,  $f_3 = \frac{1}{\sqrt{6}}(e_1 + e_2 - 2e_3)$  とおく。このとき、 $F = \langle f_1, f_2, f_3 \rangle$  が正規直交基底となることを示せ。さらに、 $T$  の基底  $F$  に関する行列を求めよ。

(6)  $n = 4$  とし、 $f_1 = \frac{1}{\sqrt{2}}(e_1 + e_3)$ ,  $f_2 = \frac{1}{\sqrt{2}}(e_2 + e_4)$ ,  $f_3 = \frac{1}{\sqrt{2}}(e_1 - e_3)$ ,  $f_4 = \frac{1}{\sqrt{2}}(e_2 - e_4)$  とおく。このとき、 $F = \langle f_1, f_2, f_3, f_4 \rangle$  が正規直交基底となることを示せ。さらに、 $T$  の基底  $F$  に関する行列を求めよ。

**59.** (1)  $e_1 = (\frac{1}{\sqrt{3}}, \frac{1}{\sqrt{3}}, \frac{1}{\sqrt{3}})$  とおく。このとき、次の2条件 (i),(ii) をともに満たすベクトル  $e_2, e_3$  を1組求めよ。

(i)  $\langle e_1, e_2, e_3 \rangle$  は  $\mathbf{R}^3$  の正規直交基底      (ii)  $\det(e_1, e_2, e_3) = 1$

(2)  $\mathbf{R}^3$  における以下の線形変換の標準基底に関する行列を求めよ。(ヒント: まず基底  $\langle e_1, e_2, e_3 \rangle$  に関する行列を求め、その後で標準基底に関する行列を求めるとよい)

(a) 平面  $x + y + z = 0$  に関する対称移動

(b) 直線  $x = y = z$  の周りの角度  $\theta$  の回転移動 **60**. 以下に与えるベクトルの組  $\langle f_1, f_2, f_3 \rangle$  にシュミットの直交化法を適用して、正規直交基底  $\langle e_1, e_2, e_3 \rangle$  を作れ。

(1)  $f_1 = (1, 2, -1), f_2 = (3, 4, -1), f_3 = (-2, -3, 5)$

(2)  $f_1 = (1 + 2i, 3 - i, 1), f_2 = (3, -1 - i, -1 - 6i), f_3 = (i, -2 + 2i, -2 - 5i)$

**61.**  $f, g \in P_3(\mathbf{R})$  の内積を  $(f, g) = \int_{-1}^1 f(x)g(x)dx$  で与えるとき、 $\langle 1, x, x^2, x^3 \rangle$  にシュミットの直交化法を適用して得られる正規直交基底を求めよ。

**62.** ベクトル空間  $V$  の基底の取り替え  $E \rightarrow F$  の行列を求めよ。

(1)  $V = \mathbf{R}^2, E = \left\langle \begin{pmatrix} 4 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 5 \\ 3 \end{pmatrix} \right\rangle, F = \left\langle \begin{pmatrix} -3 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ -5 \end{pmatrix} \right\rangle$

(2)  $V = \{^t(x, y, z) \in \mathbf{R}^3 \mid 3x - 2y - 4z = 0\}, E = \left\langle \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 2 \end{pmatrix} \right\rangle, F = \left\langle \begin{pmatrix} 4 \\ 4 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ 9 \\ -3 \end{pmatrix} \right\rangle$

**63.** ベクトル空間  $V$  とその2つの基底  $E, F$  が以下のように与えられており、 $V$  上の線形変換  $T$  の基底  $E$  に関する行列が  $A$  であるとする。このとき、 $T$  の基底  $F$  に関する行列を求めよ。

(1)  $V = \mathbf{R}^2, E = \left\langle \begin{pmatrix} 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 5 \\ 4 \end{pmatrix} \right\rangle, F = \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ 5 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \end{pmatrix} \right\rangle, A = \begin{pmatrix} 5 & 1 \\ -1 & 2 \end{pmatrix}$

(2)  $V = \mathbf{R}^3, E =$  標準基底,  $F = \left\langle \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ -2 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix} \right\rangle, A = \begin{pmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 2 & 2 & 3 \end{pmatrix}$

**64.**  $A = \begin{pmatrix} 2 & 2 & -4 & 2 \\ -2 & -2 & 6 & -2 \\ -1 & -1 & 3 & 0 \\ 0 & 1 & -2 & 3 \end{pmatrix}$  を用いて  $\mathbf{R}^4$  上の線形変換  $T$  を  $Tx = Ax$  ( $x \in \mathbf{R}^4$ ) で定義する。また、 $\mathbf{R}^4$  の部分空間  $W_1, W_2$  を以下で与える。このとき、(1)~(4) に答えよ。

$$W_1 = \left\{ \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^4 \mid \begin{array}{l} 3x + 2y - z - w = 0 \\ 3x + y + z - 2w = 0 \\ 5x + y + 3z - 4w = 0 \end{array} \right\}, \quad W_2 = \left\{ \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{pmatrix} \in \mathbf{R}^4 \mid \begin{array}{l} 2x - y + 2z - 6w = 0 \\ 2x + 3y - 6z + 2w = 0 \end{array} \right\}$$

(1)  $r = \dim W_1, s = \dim W_2$  および  $W_1$  の基底  $\langle e_1, \dots, e_r \rangle$  と  $W_2$  の基底  $\langle e'_1, \dots, e'_s \rangle$  を求めよ。

(2)  $\mathbf{R}^4 = W_1 \oplus W_2$  が成り立つことを示せ。

(3)  $W_1, W_2$  が  $T$ -不変部分空間であることを示せ。

(4)  $E = \langle e_1, \dots, e_r, e'_1, \dots, e'_s \rangle$  は、(2) より  $\mathbf{R}^4$  の基底である。線形変換  $T$  の基底  $E$  に関する行列を求めよ。65. 次の各行列に対して、以下の問に答えよ。

$$\begin{aligned}
 A_1 &= \begin{pmatrix} 3 & 2 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}, & A_2 &= \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ -4 & -2 \end{pmatrix}, & A_3 &= \begin{pmatrix} 3 & 1 \\ -4 & -1 \end{pmatrix}, & A_4 &= \begin{pmatrix} 4 & 1 \\ -1 & 2 \end{pmatrix}, & A_5 &= \begin{pmatrix} 5 & 2 \\ -1 & 2 \end{pmatrix}, \\
 A_6 &= \begin{pmatrix} -1 & -3 \\ 4 & 6 \end{pmatrix}, & A_7 &= \begin{pmatrix} -5 & 6 \\ -2 & 3 \end{pmatrix}, & A_8 &= \begin{pmatrix} 2 & 3 \\ 3 & 2 \end{pmatrix}, & A_9 &= \begin{pmatrix} -2 & 3 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}, & A_{10} &= \begin{pmatrix} -2 & -1 \\ 7 & 6 \end{pmatrix}, \\
 B_1 &= \begin{pmatrix} 1 & 2 & 2 \\ 0 & 2 & 1 \\ -1 & 2 & 2 \end{pmatrix}, & B_2 &= \begin{pmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 2 & 2 & 3 \end{pmatrix}, & B_3 &= \begin{pmatrix} 0 & -5 & -4 \\ -3 & -7 & -7 \\ 5 & 14 & 13 \end{pmatrix}, & B_4 &= \begin{pmatrix} 17 & -2 & 4 \\ 28 & -1 & 8 \\ -42 & 6 & -9 \end{pmatrix}, \\
 B_5 &= \begin{pmatrix} 3 & -2 & -6 \\ -2 & 3 & 6 \\ 2 & -2 & -5 \end{pmatrix}, & B_6 &= \begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 \\ -7 & 2 & 1 \\ 2 & 1 & 2 \end{pmatrix}, & B_7 &= \begin{pmatrix} 7 & 2 & -6 \\ -9 & -1 & 9 \\ 5 & 2 & -4 \end{pmatrix}, & B_8 &= \begin{pmatrix} 3 & 1 & -1 \\ 3 & 2 & -1 \\ 4 & 1 & 0 \end{pmatrix}, \\
 B_9 &= \begin{pmatrix} -1 & 8 & 2 \\ -2 & 9 & 2 \\ 5 & -20 & -4 \end{pmatrix}, & B_{10} &= \begin{pmatrix} 7 & -4 & 14 \\ 2 & 1 & 7 \\ 1 & -1 & -1 \end{pmatrix}, & B_{11} &= \begin{pmatrix} 3 & -4 & 1 \\ 2 & -3 & 1 \\ 2 & -4 & -4 \end{pmatrix}, & B_{12} &= \begin{pmatrix} -11 & -1 & 12 \\ -1 & 3 & 2 \\ -6 & -1 & 7 \end{pmatrix}, \\
 B_{13} &= \begin{pmatrix} 2 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}, & B_{14} &= \begin{pmatrix} 3 & 2 & -5 \\ 8 & 3 & -10 \\ 2 & 4 & -8 \end{pmatrix}, & C_1 &= \begin{pmatrix} 3 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 3 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 3 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 3 \end{pmatrix}, & C_2 &= \begin{pmatrix} -6 & 8 & -2 & 8 \\ -9 & 11 & -2 & 8 \\ 2 & -14 & 7 & -14 \\ 8 & -14 & 4 & -11 \end{pmatrix}, \\
 C_3 &= \begin{pmatrix} -7 & -7 & 2 & 9 \\ 16 & 15 & -3 & -16 \\ -24 & -22 & 4 & 24 \\ 12 & 11 & -1 & -10 \end{pmatrix}, & C_4 &= \begin{pmatrix} 4 & -5 & -5 & 3 \\ 2 & 4 & -2 & 4 \\ -3 & 10 & 16 & -13 \\ -1 & 15 & 15 & -10 \end{pmatrix}, & D_1 &= \begin{pmatrix} 2 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 1 & 2 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 2 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 2 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 2 \end{pmatrix}
 \end{aligned}$$

- (1) 特性多項式を求めよ。
- (2) 固有値と固有ベクトルを求めよ。
- (3) 適当な正則行列  $P$  によって対角化できるかどうか判定せよ。対角化できるものには、 $P$  および対角行列を与えよ。

66.  $T$  を 4 次元ベクトル空間  $V$  上の線形変換とし、 $\langle e_1, e_2, e_3, e_4 \rangle$  を  $V$  の基底とする。 $T$  のこの基底に関する行列が

$$\begin{pmatrix} 3 & 2 & 0 & 0 \\ 1 & 2 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 2 & -3 \\ 0 & 0 & 3 & 1 \end{pmatrix}$$

であるとして、以下の問に答えよ。

- (1)  $e_1, e_2$  によって張られる部分空間  $W_1$  は  $T$  不変部分空間であることを示せ。
- (2) 2次元の  $T$  不変部分空間で  $W_1$  とは異なるものを1つ求めよ。(表現行列の形からすぐわかる)
- (3) 1次元の  $T$  不変部分空間を求めよ。(少し工夫が必要)